

S01-3 4年次臨床導入学習における反転授業を利用した EBM 演習の取り組み

○恩田 光子¹

¹大阪薬大

大阪薬科大学では、薬学部薬学科4年次の全学生を対象に実施している「臨床導入学習」に平成27年度から「EBM (Evidence-Based Medicine) 演習」を取り入れた。本演習の目的は、EBMの基本概念と実践のプロセスを修得し、患者が抱える問題や疑問を解決する実践能力を涵養することである。また、平成28年度には「反転授業」を試み、学生には、本演習でのアクティブラーニングに必要な基礎的知識を動画教材の視聴を通して事前学習し、その内容をまとめたレポートを演習当日に持参するよう指示した。本演習は、ミニレクチャー【EBM概論、文献検索概論、ランダム化比較試験 (RCT) 概論、システマティックレビュー概論】、演習 (PICO 演習、論文の批判的吟味)、グループ発表で構成されており、演習は10人ほどの小グループによるディスカッション (SGD) を中心に展開し、グループごとに1名のチューターがSGDを担当する。演習の大きな流れは、(Step1) 臨床現場での患者と薬剤師の会話を想定したシナリオに基づいたPICO立て、(Step2) 問題に関連した英語文献の批判的吟味、(Step3) 患者への適用の検討、である。実習に用いる論文はRCTとし、文献評価のためのワークシートに沿ってグループ内で批判的吟味を体験する。また、吟味の結果を患者へ適用するか否かをグループ内で検討し、発表・全体討論を通して総括を行う。本シンポジウムでは、学生の取り組み姿勢、反転授業の導入によるSGD実施上の効果、および今後の課題について所見を述べる。